

JAMトピックス

連合 第95回メーデー中央大会 約2万9千人結集

結集デモで

「価値を認めあう社会へ」 シュプレヒコール



連合第95回メーデー中央大会結集デモ第一梯団の先頭
左から椎木副書記長、川野副書記長、安河内会長、中井書記長、
中澤JAM東京千葉副委員長（タ・仲工業労組東京支部）



JAM参加者は横断幕とのぼり旗
を掲げアピール

連合第95回メーデー中央大会は、4月27日に、東京港区・青山公園から代々木公園式典会場までの約3.6キロをデモ行進し、式典に参加した。

JAM東京千葉と大手労組、JAM本部職員など約250人の梯団は、中小零細企業への公正取引を求める「価値を認めあう社会へ」を旗印に『「製品」と「労働」に適正な価値を』、「価格転嫁まったなし」などと街行く人たちに訴えた。

また、「企業規模間の格差を是正しよう！男女間格差を是正しよう！」などシュプレヒコールを挙げた。

芳野友子連合会長（JAM参与・JAM東京千葉・JUKI労組）は、「働く人の7割が勤める中小企業の給与が上がらなければ、みんなで賃上げたとは言えない。労務費を含む適切な価格転嫁という当たり前の商慣習を根付かせていきましょう」などと訴えた。

また、中小企業代表として、JAM東京千葉・千代田鋼鉄工業労組・加藤雅治執行委員長（右）は、「原材料価格の高騰、輸送コスト高、労務費上昇分を製品に価格転嫁できなければ事業継続が危ぶまれる」と現状を訴えた。



JAM組織内候補予定者「郡山りょう」氏が駆けつけ

「価値を認めあう社会へ」（「製品」と「労働」に適正な評価を）の横断幕で郡山りょう（右）と村田享子参議院議員（左）と一緒にアピール。

